



鷺の宮卓話

数字のマジック

研究所長 太田敬雄

オリンピックのおかげですっかり生活のリズムを乱してしまった私。昼夜がひっくり返ってしまった感がある。

昔は金メダルを取らないと失敗であったかのような報道が多かったが、今年に入賞した選手は何色のメダルでもメディアが祝福する姿勢が顕著になり、メダルが取れなくても入賞した選手・ベストを尽くした選手も好意的に報道されていて大変良くなったと思う。選手たちもメダルの色だけにこだわるのではなく、努力の結果を振り返る様子にすがすがしさを感じさせられた。

それでもなお我々観戦者はメダルの色に一喜一憂したものだ。そして、オリンピック史上初となる38個のメダル獲得に喝采をおくっている。今年の日本のメダル獲得数は、世界で11番目だという。こういう数字が並べられると私の懐疑心がむくむくと頭をもたげてくる。

そこで、人口とメダル数の比較をしてみた。すべての国について調べたわけではないが、結構面白いことが見えてきた。

日本の人口は2012年度のWHO世界保健統計によると1億2千700万人。38個のメダルは人口340万人に一個の割合で獲得したことになる。この数に近いのがメダル獲得数世界一のアメリカ。3億1千万人の人口に対して103個のメダルを獲得しているのだから、約300万人のアメリカ人が一個のメダルを獲得した計算になる。

それに対してメダル獲得数で第二位だった中国は人口が13億4900万人で87個だから、何と、1150万人にメダル一個。三位のイギリスは6200万人で64個だから約100万人に一個のメダル。4位のロシアは174万人に対して一個のメダルを獲得している。

獲得率が高いのが、オランダとハンガリーで、何と、両国共に人口約3万5千人程度でメダル一

個を獲得したことになる。

メダル獲得率が低いインドは実に2億人に一個、インドネシアは1億2千万人で一個。

日本とほぼ同じ数のメダルを獲得したオーストラリアは64万人に一個のメダルとなっている。活躍が著しかったブラジルは5750万人に一個。モンゴルは55万人に一個。ニュージーランドは34万人に一個、アゼルバイジャンは92万人に一個。

この計算を全参加国について調べ、一つのメダルに対しての人口比を一覧にして比較すると、これまで私たちが目にしてきた獲得数の「順位」とは全く異なるリストが出来上がる。

一個のメダル獲得に、どれくらいの国民数があるのかはその国のスポーツ環境の充実度を示すと考えて、その順位を出してみると、メダル数による順位と大きく変わる。これは私がたまたま調べてみたメダル獲得数上位の16か国に、十数か国を加えた30か国弱の順位でしかない。200か国を超えるオリンピック参加国でメダルを一個でも獲得した国を調べれば日本の順位はさらに下がるだろう。

1位 オランダ、2位 ハンガリー、3位 ニュージーランド、4位 モンゴル、5位 オーストラリア、6位 キューバ、7位 カタール、8位 イギリス、9位 カザフスタン、10位 韓国、そしてロシア、ドイツ、フランス、スイス、イタリア、ジャマイカ、ウクライナ、アメリカ、日本(19位)、北朝鮮、ケニア、ギリシャ、中国、ブラジル、インドネシア、インドと続く。順位などというものは、このように何を基準で出すかによって全く違ってくるものだ。

私に関わってきた教育の世界にも数字があふれている。進学率、就職率、合格率そして点数。どの数字も意図があり、その意図に即した基準がある。そして恐ろしいことに、出された数値が気に入らないと基準や条件を変えれば、数値は大きく変わる。数字は分かりやすく、大いに活用してよいが、その背景にある数字の出し方については冷静に分析してみる習慣を身に付けたいものだ。盲目的な数値信奉者になってしまっただけでは、数字を利用するのではなく、数字に振り回される人生を送ることになる。

～シリーズ 対談～

おさかけいこ
小坂恵子弁護士との対談
5月19日午後 まなばるXDにて

小坂弁護士は自己紹介にこう書いておられる。
「農家の母ちゃんから48歳で弁護士に」

「大学の教育学部を卒業後3年間ほど、重度心身障害児対象の養護学校で教員として勤めました。その後、加藤登紀子さんのパートナーの故藤本敏夫氏が創設された「大地を守る会」という有機野菜等の流通会社で、営業部門を数年経験後、電算室でシステム開発を担当しました。退社後、一年ほど茨城県で有機農業の研修をし、群馬に新規就農しました。生産者として、大根やレタスなどの季節に応じた野菜を無農薬で作り、「大地を守る会」や生協、フレッセイなどに出荷していました。

以上のように、私は何年間か社会人を経験した後、一念発起して法律家を志し現在に至っております。」



人生に回り道はない。
どのような人生を歩もうと、そこでの経験が活かされて豊かな明日が生まれる。

小坂弁護士はきっと、相談に来る人々を単に法的に守るだけではなく、心の痛みのわかる弁護士として貴重な活動を続けて下さることでしょう。研究所の仲間にもこのような貴重な人材を与えられていることに感謝！

以上のように、私は何年間か社会人を経験した後、一念発起して法律家を志し現在に至っております。」

櫻井信治氏との対談
群馬 NPO 協議会会長
7月21日午後 まなばるXDにて

人間社会は激動期と安定期を繰り返しながら変化してきている。そして、どうも安定期には年寄りがリーダーシップを取り、激動期になるとリーダーになる層が非常に若くなる。

新しい発想で、それまでになかった時代を構築していくにはしがらみやこだわりのない、柔軟な発想の出来る人材が必要となるからだろう。

今年の群馬 NPO 協議会をその発足時より10年以上育てて来られた初代会長、第2期会長が引かれ、自ら立候補された櫻井信治氏が会長に選ばれた。それはまさにNPO協議会が大きく変わることを求められている時代の到来を告げている。櫻井氏がリーダーシップを十分に発揮し、時代の変化に即した新しい協議会を創り上げていかれるよう、私たちはしっかりと見守り、応援して参りたいと思います。



子供さんを抱きながら、熱く語られる櫻井氏。この人になら、これからの群馬県のNPOを安心してリードして貰えると確信させられた対談でした。



当初の計画のように、毎月というわけにはいきませんが、シリーズ「対談」年数回は継続して開催します。

特集：多文化交流 ～10年の歴史を振り返りつつ～

◎釜山外大生との多文化交流 in 釜山

+ 檀國大学生との多文化交流 in ソウル 《2012. 8. 20～27 + 台風による数日》

◎インドネシア招聘プログラム 《8.30～9.14》

◎留学生との多文化交流 in ぐんま 2012 夏 《2012. 9. 1～3》

x まなばる高学年サマーキャンプ 2012 《9. 1. ～2》



釜山のビーチ前で
「釜山」



ソウルの焼肉店でのパーティ 美味しかったソウル最後の日 「ソウル」



かに 招聘生 先ずは着物姿でしとや
似合ってますね「ぐんま」



「ぐんま」 学習の森、集いの間に集う：思い思いの衣装と笑顔で

～序～

会員の皆様、こんにちは。同志社大学の日本語・日本文化教育センターで非常勤講師をしております荒井美幸と申します。留学生への日本語科目を担当しています。今でこそ日本で働いていますが、思い起こせば2000年、新世紀の訪れに胸をときめかせながらブラジルの地を踏んだのが始まりです。その後、大泉町、高知、インドネシア、コスタリカ、長野、セルビアと世界各地を転々としながら日本語を学びたいという皆さんのために働いてきましたが、ベースとなる自分自身の考え—世界の平和に貢献するために—は今も全く変わりません。

最近、荷物整理をしていたら、何と「多文化交流 in ぐんま 2002」の参加者に参加後送った手紙の原本が出てきました。現在、「多文化交流」事業は、群馬、インドネシア、韓国、台湾などで行われており、既に10年の実績がありますが、2002年に群馬で行われたものが「多文化交流」の原点でした。コーディネーターとして参加した私は、企画段階から関わらせていただき、実施中は早朝から深夜まで走り回り、終わってみたら5キロも体重が落ちていたのを思い出します。その参加者への手紙を読み返してみると、10年という月日を全く感じさせず、反対に今だからこそ多くの人々に読んでいただきたいと思い、掲載をお願いした次第です。

10年前と変わらず世界中で紛争の火花が散り、多くの人々が尊い命を落とし、日本周辺でも領土問題をはじめとし、緊張状態が続いています。各国の政治家たちは時に国のため、ときに自分の所属する政党の利益のため、またある時は自分自身の利益のため、実にいろいろなパフォーマンスを行います。それによってある国と国との関係が一気に悪化するのを私たちは目の当たりにしてきました。しかし、それでも、「多文化交流」のような事業を通じて、そして毎日の日本語の授業を通じて、正直に真摯にいろいろな国の人々と向き合い、コツコツと友好関係を築き上げ、平和の種を撒き続けるのを止めるわけにはいきません。いつか撒いた種が大きく大きく育ってくれることを夢見ながら、日々活動を続けていきます。

荒井美幸 12.9.21.

多文化交流 IN ぐんま2002 参加のみなさんへ

お疲れ様でした。そして、ありがとう。きっと今頃、みんなそれぞれの家へ帰り着き、貴重な体験と素晴らしい仲間たちを思い出し、時々涙が出てきたりしているのではないのでしょうか。私もまた、そのうちの一人です。長い旅に出たあと、出会った様々な人を楽しみ思い出す時のような、ブラジルで教えていた生徒たちに会いたくて仕方ない時のような、そんな思いと、今、全く同じです。プログラム中、早朝から深夜まで、寝る暇もなく走り回っていたので、とても大変だった分、人一倍楽しかった。みんなが帰ってしまった今、心にぽっかり穴が開いたようで、しばらくは何もできそうにありません。

私は今まで、中国、韓国の人たち、日本の大学生たちには、一種の偏見がありました。中国、韓国との間には、昔、私たち日本人の祖先が、あなたたちの祖先に、戦争という名の下に、とてもひどいことをしたという悲しい事実があります。現在、たまたま日本に生まれ、日本人として生きている私は、現在、たまたま中国、韓国に生まれ、中国人、韓国人として生きているあなたたちには、何も悪いことはしていません。でも、それぞれの国の政策や教育の違いから、心の奥底では恨まれている、という恐怖がありました。教育とは、生まれた国の成員になるために必要な知識や能力を身に付けるため、国が行うものだからです。子供のころ受けた教育とはそれほど大きな力を持っています。日本の大学生に対しては、社会人になる前に、堂々と遊んでいられる最後のモラトリアム期間として、別にそれほど勉強したいというわけではないのに、大学生をやっているのだと思っていました。事情があつて、勉強したいのにできなかった私にとっては、腹立たしい限りでした。これら二つの偏見は、日々流され続けるメディアからの情報のみで判断してしまっていた、私の大きな間違いでした。

でも、今回のプログラムにスタッフとして参加して、そんな偏見はすっかり消えて無くなってしまいました。これは、本当にみんなのお陰です。みんなから、とてもたくさんのものをもらいました。何回ありがとうを言っても足りません。この人たちとなら一緒に歩いていける、この人たちになら、日本の、世界の未来を任せられると思えました。(そう言うほどみんなと年が離れているわけじゃないけどね。)今回のプログラムの素晴らしかったところは、日中韓、三国参加というところだったと思います。二国間交流のプログラムは、あちこちにありますが、今回のような、三国間で、というのは、初の試みなのではないかと思えます。高知のみんなにとっても、地元高知ではなく、群馬という見知らぬ土地で、対等な立場で参加できたのも、大きなことだったのではないのでしょうか。これから、中国、韓国、日本とうい三国が協力し合い、同じ方向を見て、足並みをそろえることによって、欧米諸国にも、堂々とはっきりと物が言える、世界がより良い方向へ向かっていくための大きな力になっていくのではないのでしょうか。その原動力に今回参加のみんな(私も含め)がなっていくてくれることを願います。

自分が経験したことや感動したことを、言葉で表すのはとても難しい。それを人に伝えるのはもっと難しい。でも、それが私たちのこれからの課題です。貴重な体験を生かすも殺すも、これからの自分たち次第です。長い手紙を読んでくださってどうもありがとう。必ずいつか再会しましょう。

参加したいという学生がたくさんいる中で、あなたたちを選んで引率して下さった先生方や、援助して下さった、あなたたちの家族のみなさんにも感謝しつつ。

2002年8月12日

荒井 美幸
あらい みゆき

この手紙が出されてから 10 年の歳月が流れ、国際比較文化研究所の「多文化交流」プログラムも多くの新しい企画が加えられてきました。次ページの写真に見るように、「留学生との多文化交流 in ぐんま」には「まなばる高学年サマーキャンプ」が合流しました。留学生と日本人学生、そこに小学生が加わってどうなる事かと心配もしましたが、結果的には実に素晴らしい交流の場となりました。



「留学生との多文化交流 in ぐんま 2012」 於：安中市の「学習の森」
まなばるキッズ・留学生・そして日本人学生が一つとなって！

多文化交流 in 釜山

群馬大学 2年 鈴木彩日

私は、大学の掲示板でこのプログラムについて知り、以前から何か海外短期交流プログラムに参加したいという思いがあったので、参加を決めました。掲示板で見ただけのプログラムに1人で参加をすることには、少しは不安がありました。けれど、今は多文化交流 in 釜山に参加して本当に良かったと思っています。

韓国人学生と交流して感じたことは、みんなとても優しいということです。何も分からない私たち日本人学生をリードしてくれて、韓国のことについてたくさん日本語で説明をしてくれたり、おいしいお店や楽しい所に連れて行ってくれたり、本当にお世話になりっぱなしでした。一緒にいる間は、お互いの国や言葉について話をしたり、冗談を言い合ったり、恋の話なんかもして、本当にたくさん話をしました。ただ韓国旅行にきただけでは絶対に経験することのできない経験ができ、同年代の韓国人とたくさん話ができ、こんなにも楽しい交流ができたのは、本当に韓国の学生たちのやさしさがあったからだと思います。また、日本人学生との交流も本当に濃いもので、正直、初対面から短期間でここまでも仲良くなれるものだとは思っていませんでした。

多文化交流 in 釜山での思い出は、一生忘れることがないと思います。多文化交流に関わる人々の働きに感謝して、この経験をこれからの人生に生かしたいと思います。

福岡工業大学短期大学部 1年下 條玲奈

韓国に行くのは2回目でしたが、本当にいい経験ができました。日本からも知らない人たちばかりでしたが、一緒にいるとすぐに仲良くなって。人って不思議なものです。韓国の方々に関してもそうです。日本と韓国、違う異国人なのに毎日一緒にいると見えない絆で繋がる。言葉が通じていなくても楽しめる。最後には離れたくない、まだ一緒にいたい。これは私だけでしょうかね(笑)? 多文化交流、とてもいい企画です。できれば福岡でも企画して釜山の皆さん、群馬の皆さんを呼び、またあの楽しい日々を見てみたいと思いました。

福岡工業大学短期大学部 1年 平尾真理子

私は特に韓国に興味があったわけではなく、参加を決めたのも英語がとても苦手な私にとって海外なのに日本語でいい!という部分が大きかったからです。

韓国と日本の問題から、不安もありました。実際に行ってみればそんな心配はまったくなくて楽しいことばかりで、でも文化の違いの話などいろいろと深い話もできて…と本当に充実した8日間とプラス2日*でした。

日本でニュースやアイドルをみているだけじゃわからない韓国を見ることができ、多文化交流という形で友人が増えて、本当に良かったです。彼らが外国語の日本語を使いこなす姿を見ると、尊敬すると同時に自分もなにかしゃべれる言語を増やしてほかの国の人と交流したいな…とも思いました。九州組オリエンテーションをしてくれたまりなさん**にも、とても憧れます。

本当に本当に多文化交流に参加してよかったです。太田先生、千景さん、梶原先生、イム先生、橋本先生、ブサンとソウルの学生のみんな、一緒に参加した日本のみんな、全員に言葉にならないくらい感謝です。一生忘れられない夏になりました。

*台風の影響で帰国が二日遅れました。**まりなさん=2010年の九州からの参加者。九州のオリエンテーションをお願いした。

九州産業大学 1年 高林亜以

現在竹島問題があり、韓国を訪れるのが怖かったです。しかし、韓国の先生方や学生の皆さんはとても親切にしてください、初めての海外でしたが、とても良い思い出になりました。

韓国の学生に感心したのは、「自主的に学習している」ということです。分からない言葉があれば、すぐに「それはどういう意味?」と聞いてきたり、自分で調べて意味を理解しようと努力していました。皆さんとても勉強熱心で、私も見習わなければならないなと思いました。

今でも釜山の学生とは連絡を取り合ったりもしていて、お金では買えないものを得ることが出来ました。

以前参加した多文化交流 in マランとは違い、韓国人参加者がパートナーとしてではなく流動的に参加するところや、日本人参加者に知り合いが誰もいないというところに少し不安を感じていましたが、そんな心配はまったく必要なく、大切な友達がたくさんできた最高の7泊8日でした。

また、日韓の国同士の関係が悪くても、個人間では良好な関係も築けるのだと感じました。首都ソウルから離れた釜山であったことや、日本語学科の学生と一緒に行動していたことも影響したと思うのですが、みんなで行った飲食店の店員のおばさんたちに勇気を出して韓国語で話しかけてみたとき、易しい韓国語を使って、笑顔で会話をしてくれました。メディアの報道等を見ていると韓国人は日本人に対して嫌悪感を持っているというイメージを持ってしまっているのですが、実際には親しみをを持って接してくれる人もいて嬉しく思いました。あと、私はもともと韓国語や韓国の文化に興味を持っていたので、予めその国に興味を持つておくことは人の距離をぐっと近づけるといことも感じました。

今回の多文化交流で痛感したのは、こんなに近い国である韓国や、自分が住んでいる日本の歴史について私は何も知らなかったということです。このプログラムのために勉強したこともあると思うのですが、2日目の捕虜収容所の時に、韓国人学生がとても詳しく説明してくれました。もしも逆の立場だったら、私は何をどう説明できるのだろうかと思いました。改めて日本のことをよく知りたいと思いました。

前橋国際大学 4年 渡邊浩貴

初の海外ということで行く前は不安に感じることもありましたが、出発前のオリエンテーションで群馬の参加者と仲良くなれ、また韓国での過ごし方などのアドバイスをいただけたため、徐々に不安が楽しみに変わっていきました。

韓国に着いてからも、イム先生や梶原先生、釜山外大の学生、ソウルの檀国大学の学生がまるで家族のように接してくださり、滞在中は本当に充実した日々が過ごせました。一週間という短い期間でしたが、韓国の大学生が皆日本語を話せたこと、参加者が朝早くから夜遅くまで一緒にいられたこと、食事やお酒を一緒に交わすことでお互いがお互いの文化を学べたことで仲良くなれたのだと思います。

最後に、僕自身ずっと韓国に関心があり、ドラマや映画を見たり、新大久保に行き韓国を知ろうと努めていましたが、日本の中で得る韓国の知識と実際に韓国に行ってみて感じた事は違いました。政治的な問題などで「韓国が一番近くて遠い国」などと聞いた事がありますが、文化、人柄で考えれば日本に本当に近い国、民族なのではないかと今回の多文化交流 in 釜山に参加して感じました。

福岡工業大学短期大学部 1年 又木美咲

初めての海外でした。最初は不安もありましたが、実際に行ってみるとそんな不安もなくなりました。10日間の短い期間でしたが、一生忘れられない大きな経験になりました。

一番嬉しかったことは、たくさんの友達ができたことです。一緒にご飯を食べて、一緒にたくさんのおもしろいことを楽しんで毎日過ごせたことが本当に楽しかったです。もし、今回の多文化交流に参加していなかったらこんな経験も出会いもありませんでした。今まで、新しいことに積極的に挑戦することが苦手だったのですが、とりあえず何でもやってみようと思えるようになりました。そうすることでまた新しい発見がありそうな気がします。太田先生に言われたように、多文化交流で出会えた多くの人との交流を大事に育て、もっともっと広げていきたいと思えます。いつか『多文化交流 in 福岡』を実現して、もっといろいろな学生にも、同じような気持ちをあじわってもらいたいと思いました。

九州産業大学 1年 白石保菜美

今回の多文化交流を通して、私は一歩成長できたと感じます。韓国は日本とあまり離れていませんが、文化の違い、生活の違いがあり、それらを教科書からではなく自分自身で体験し、偏見や間違いのない真実を知ることができました。

最初は韓国へ行くことはとても不安でした。友達にできるか、日本とは違う環境でちゃんとついて行けるかなど、心配なことがたくさんありました。しかし韓国に着いて、向こうの学生達に会い、話してみると、みんなはとても親切で不安もすぐに無くなりました。そして、この人達と友達になりたいと思えるようになりました。

今回は台風が来て、滞在期間が予定より2日多くなってしまいましたが、私はこの2日間で今回の多文化交流の中でとても大切な思い出になりました。みんなとの絆も強く深いものになったと思います。



台風で九州に帰る高速艇が二日間欠航となり、釜山のホテルに缶詰めとなった。この姿に誰がホテルで台風の通過待ちをしていると想像できるだろうか。←



招聘生：食後のひと時

夏の終わりに、また1つ思い出ができました。私にとって2回目の多文化交流も、2012春に引き続きスタッフとして参加しました。前回と大きく違うのは、なんとスタッフ含め参加者が約50人集まったことと、元気なまなばるも一緒だったことです。前回スタッフをやったといえ勝手が違いました。しかし有志であったスタッフとともに、私たちはみなさんに楽しんでもらえるような「箱」を用意しました。

中身を入れて作り上げたのはプログラムの3日間、安中市学習の森にいた全員です。上毛かるた、BBQ、群馬県内への小旅行や工芸体験、ソーラン節に多国籍料理作り、流しそうめん。そして何気ない会話。みなさん初対面とは思えないほど仲を深め楽しんでいて、スタッフとしてはこれ以上ない幸せです。みなさんは交流をして何を感じたでしょうか。

私は、「全てを知らない」ということを生で感じました。テレビ、ニュースで見たものも、もちろん今回の多文化でのことも、自分とは異なる国の一部にしか過ぎないのです。それを原体験から理解できたことは、今後社会で生きていく上で大きく影響すると思います。

そしてプログラムが終わるころには入りきれないほどの想いが溢れ、温かい雰囲気の中、無事に「留学生との多文化交流 in ぐんま 2012 夏」を終えることができました。出会いに感謝することができた3日間でした。

なんととっても多文化交流のいいところはアットホームなところなんです。人が何人集まろうと変わりません。アットホームな雰囲気の中、自分とは違う国の人と交流し、友人となり、また会う約束を交わせる。そこから始まる多文化理解に平和への一歩を感じました。違いがあるからこそそれぞれの文化が生き、その違いを認め合えば豊かな世界になるのではないのでしょうか。今後も多文化交流で学んだことを大切にしていきたいです。開催にあたりご協力して頂いた皆様、本当にありがとうございました。感謝を込めて。



今回の多文化交流イベントを準備してくれたスタッフは県内大学に通う学生たち！多文化交流は、そんな熱い若者たちによる、若者たちのための、笑いと涙と感動のイベントです。
子どもたちが中心になれる。しかもみんなで楽しめる。この2点をテーマに、スタッフたちが考えてくれたのが「上毛かるた大会」。5名程度のチームに分かれ、各チームに小学生・日本人学生・留学生が入って他チームと対決です。(8ページへ)▶



中央情報経理専門学校 デイビッド・ミンクス (ドイツ)

多文化交流会に初めて参加して、日本人の大学生と様々な国から来た留学生と三日間を過ごして、大変楽しい経験でした。2年前ドイツのハンブルグから群馬に来て、日本語を勉強しながら留学生の生活を楽しんでいます。ところが、最近勉強でとても忙しくなったために、日本人と他の外国人もあまり会えなくなってしまいました。そこで、学校に貼った多文化交流会のパンフレットを見つけて、参加しようと決めました。

9月1日の土曜日。集合の安中駅に着いたら、すでに駅前に大きいグループが待っていました。改札口を通ったとたんに、“こんにちはデイビッド”と言われて、とても嬉しく、“彼らがスタッフと参加者だ”とすぐにわかりました。全員が集まって、グループ写真を撮ってから学習の森に出発しました。そこで第一のイベント、小学生と大学生と留学生が混ざってチームを組んで、上毛カルタの勝負が始まりました。皆はすごく上手でした。特に、小学生たちはレベル高く、手が見えないほど速かったです。それを分かった頃には、もう2回負けていました。しかし、その後すぐBBQの準備が始まったために、負けた悲しみをすっかり忘れられました。二、三時間かけておにぎり、野菜と肉をもぐもぐ食べて1日目は終わりました。

そして日曜日スケジュールがいっぱい詰まっていました。朝早く皆でラジオ体操、朝ごはんを食べてだるま工場に出発、お昼はそば、観音山見物、夕方温泉で、帰ったら疲れてすぐ寝ちゃった人も少なくなかったです。しかし、10人ぐらいの日本人、台湾人、ドイツ人と中国人のグループで深夜3時まで会話をしました。政治や将来、特に恋愛のこともたくさん話しました。“国が違っても、共通点が多いな”と思いました。

次の朝、もう最後の日。朝、ソーラン節を踊りました。その後、皆で故郷の料理を作りました。全部が美味しかったのですが、インドネシアのバナナ料理は信じられないほど美味しかったです。食べ終わったら、送別会になってしまいました。楽しい時こそ時間の経つが早いでしょう。

多文化交流会で色々学ぶことができました。だけど、何よりも異文化理解と言う言葉を改めて見直しました。異文化理解とは、テレビの国際番組を見ても分からないと思います。新聞の数字を読んでも理解ができないと思います。他の国や文化の人を本当に分かりたくなったら、その国の人たちとたくさん話して、たくさん料理を作って、たくさん遊んで、一緒に生活することが大切です。他の国の人たちが意外と似ていることが分かってきました。多文化交流会の皆さんへ、本当にありがとうございました！

いろいろな人と友達になりたいという勢いだけで応募してしまったため前日は本当に不安で一杯でした。留学生と関わったこともないし知っている人が誰もいない！交流会に行くのが怖かったです。しかし、実際みんなに会ってみるととてもフレンドリーで優しいひとばかりですぐに仲良くなれました。

留学生のみなさんも怪談話や恋の話に花を咲かせる日本人と変わらない普通の学生さんだったので、少し拍子抜けする一方、私たちは〇〇人である以前に同じ人間であることを深く実感しました。

3日間の中で私が1番楽しかったのはいろいろな国の料理をみんなで作って、食べたことです。ドイツのザワークラウト、インドネシアのピサンゴレン、日本の流しそうめん、など様々な料理が並んだ時は圧巻でしたし、みんなで協力して作る楽しさ、新たな味に出会う楽しさを満喫できました。

家に帰って振り返ってみると、国同士の交流もこれと同じじゃないかなと感じました。自分の国にはない相手の国のよさを認め、時には良いところを取り入れる。国際交流って聞くと難しくて、敷居が高い感じがしますがその本質は簡単なことなのではないかと私は考えるようになりました。

今回大学、年齢、国籍を越えて交流ができたことはわたしの一生の宝物です。この経験を生かして今後もっと視野を広げていきたいと思います。そして、この素晴らしい交流会が今後も続いていきますように。

高知大学 植國勲 (中国)

9月1日から9月3日にかけて群馬県安中市で開催された多文化交流 in 群馬は順調に終わった。今回中国、マレーシア、ドイツ、インドネシア等各国と地域からの留学生達と日本人学生と一緒に合宿。その間に小学校高学年の子ども達も参加した。一日目には皆と一緒にバーベキューをした。男子も女子も助け合って楽しみながらバーベキューをした。小学生達も一生懸命に参加して、ウチワで炭火を扇ぎ続け、皆の笑いを誘う場面もあった。子供頃の自分もそのような姿だったろうと思う。

合宿の場所は自然に恵まれている山の森の中で、周りの環境もいいし、空気もきれい。一番印象的なのはやはり頂上に立ってみられた黄昏だった。そのような眺めを見るとここで生活していけばどのように幸せだろうと自然に思った。

留学生達と話したり、朝練をしたり、各国の料理をしたり、日本の流しそうめんと浴衣を体験したり、だるまを作ったり、市内観光したり、みな非常に楽しかった。短い三日間だが、深いフレンドシップを作った。皆の笑顔や別れの時の自然にわいてきた涙や愛しくハグし合った。すべて友情の証だ。

スタッフ達には心から感謝している。最後に受賞されたスタッフ達のキラキラしていた涙でそれまでの苦労と感動がわかった。

大田先生の話聞いて、交流で自らの文化の重要性に気がついた。前より自分の国の文化を勉強すべきであり、各国の文化を聞いてみてよく知ってからお互いに同じな交流できるステージが作られるようになる。このステージは多文化交流だと考える。

今回の多文化交流 in 群馬ではたくさんの忘れようにも忘れないような良い思い出をつくって各国からの皆さんに出会えて非常に嬉しかったと思う。また会いましょう、My dear friends.

獨協大学3年 黒岩卓誠

スタッフ代表の清水さんに誘っていただいて、はじめて参加させていただいた今回の多文化交流。正直、知り合いが一人もいず、人見知りはしない性格ではありますが、多くの文化・価値観を持った仲間たちの中で自分が溶け込めるのか不安でした。安中駅に最初に着いたとき、ここ最近で一番緊張したのを覚えています。

自分自身も、獨協で国際問題研究サークルの代表をしていて、学内の「留学生と学ぼうパーティー」などには参加したことがありました。参加する前は、獨協で経験したような留学生との交流なのかな？と思いましたが、全然!!違いました!!!3日間という短い時間ながら、文化・宗教・価値観のカベを越えて、人生観から政治の話、恋愛や自分の生い立ちまで話せる仲にまでなることには本当に衝撃でした。『多文化交流：スゲー』と心から思ってます!

特にデービットや弘誠と政治観の話をした時、普段で国際政治学を勉強しているにもかかわらず、自分の意見が出なかったことがとても悔しかった。勉強不足を痛感させられました。ボランティアプログラム等で留学生と交流した機会はこれまでもあったのですが、あそこまで本音で、深い話をした経験はありませんでした!!本当にいい経験で、もっと多文化とふれ合う機会がほしいと切に感じた3日間でした。

(中略)そして、個人的に本当に楽しかった『まなばる』キッズたちとの遊び!もう、びしょびしょになっちゃったけど、最高に楽しかったです!!またぜひ、今度『まなばる』に遊びに行かせて下さい!!

“プログラムの終了が本当の『多文化交流』のはじまり”という太田先生の言葉を胸に刻み、多文化で出会った仲間とのつながりを大切に、多文化交流の楽しさや国際問題の面白さを少しでも伝えていけるように、頑張っていきたいと思います。



(7ページより) ※上毛かるた
 いうのは、群馬県民は小学生のうち
 にみっちり鍛えられ、各地で大会も
 開催されるような郷土かるたで、群
 馬の子どもたちは全員これにより、
 群馬県土地・人・出来事を漠然と
 知っています。
 「え、そんな日本語と群馬
 に偏ったゲームでいきなり
 交流なんて大丈夫なの??」
 と思われる方もいるでしょ
 う。しかしながら、このかる
 た大会・・・この上なく盛り
 上がったのでした。〽
 留学生たちや県外から来
 た学生たちは、「なんだこの
 遊びは」的カルチャーショッ
 クを隠せません(笑)しかし
 彼らはそれだけでは終わら
 なかった!一開始してまも
 なくして、そちらこちらであ
 る大歓声。
 そもそも小学生たちが断
 然強いので、一回目はハンデ
 付きルールで戦ったのです
 が:(次ページへ続く)〽



まなばるキッズ at
多文化交流 in ぐんま

ルールを把握してからは、留学生たちもハンデなしのガチ参戦。まさに「言語の壁」など、あっさり乗り越えて楽しんでくれたのでした。

17:30 BBQ大会

まだ明るいうちから BBQ 開始だけれど雨がどうにも降ったりやんだり。BBQ 中もなかなか強く降ってきたりしていました。

が！皆全く気にしていませんでしたね(笑)

肉は美味しいし焼きそばも美味しいし、お兄さんお姉さんたちにかまってもらえるし、まなばるキッズたちは大はしゃぎでした。(まなばるブログより)

総会報告

5月26日午後
に「まなばる XD」
で総会を開催。

出席者確認
(出席9名・委任
状69名・)議長・
議事録署名人選
出を経て審議に
入る。2011年度
事業報告、収支決
算、監査報告と続
き、続いて2012
年度の事業計画
及び予算を審議
した。決算・予算
は右の表の通り。

次に理事及び
監事任期満了に
つき改選を行い、
これまでの理事
・監事全員の重任
が提案され満場
一致で承認され
た。

次に事業拡大
に伴い、新たに
100万円以下の借
入金(必要となっ
た場合)を総会と
して認めた。

理事会報告

総会後理事会
を開催し、理事
長・副理事長の選
任を審議し、これ
まで通り理事
長：太田敬雄
副理事長：伊藤
成、野口紀子、関
千景を選出した。

2011年度決算・2012年度予算書

○収入の部	2011年度 決算	2012年度予算		
		研究所	まなばる	合計
1、財産運用収入				
利息収入	9	10		10
2、会費・寄付収入				
会費収入	373,000	350,000		350,000
寄付金収入	774,075	450,000	300,000	750,000
3、事業収入				
言語・文化教育事業収入	5,807,000	0	7,000,000	7,000,000
多文化交流事業収入	177,635	200,000	0	200,000
4、雑収入				
助成金	300,000	0	0	0
雑収入	5,000			
当期収入合計	7,436,719	1,000,010	7,300,000	8,300,010
○支出の部				
租税公課	12,500	5,000	4,000	9,000
水道光熱費	297,789	80,000	220,000	300,000
旅費交通費	313,800	200,000	0	200,000
通信費	465,632	300,000	130,000	430,000
広告宣伝費	112,534	0	120,000	120,000
交際費	103,000	0	120,000	120,000
損害保険料	32,802	15,000	18,000	33,000
修繕費	64,198	0	0	0
事務費・消耗品費	465,063	120,000	300,000	420,000
給料手当	3,938,000	0	4,200,000	4,200,000
諸会費	20,000	10,000	0	10,000
賃借料	1,176,300	0	1,440,000	1,440,000
会議費	155,226	10,000	100,000	110,000
燃料費・車両経費	245,608	10,000	200,000	210,000
開業費	0	0	0	0
新聞図書費	122,490	36,000	90,000	126,000
寄附金支出	46,075	0	0	0
振替手数料	36,578	35,000	0	35,000
雑費	1,055	0	0	0
法定福利費	162,748	0	200,000	200,000
当期支出合計	7,771,398	821,000	7,142,000	7,963,000
差額(当期収支差額)	-384,679	179,010	158,000	337,010
前期繰越収支差額	421,340			36,661
次期繰越収支差額	36,661			373,671

☆会費納入とご寄付の感謝とお願い☆

会員の皆様はじめ、ご協力と呼びかけさせていただいた多くの方々には、思いをはるかに超えたサポートをいただき心から感謝しております。皆様のおかげをもちまして今年度は年度初めより活発に活動を始めております。また今年は認定NPO法人格取得のためにも準備と努力を続けております。

会費納入のご請求及び会費とご寄付の報告が遅れておりますことをお詫び申し上げます。
年会費は個人が2000円です。いつものように会費をすでに頂戴している方にも振込用紙を同封させていただきますが、これはご寄付下さる方のため、また新入会員をお誘いいただくための振込用紙です。
決してご寄付を強要するものではありません。

会費・寄付(2012. 4. 1~9. 30)

<敬称略・順不同>

<新たにご入会下さった方>清水澄、中野俊一、池田章二、深川まりな。ご入会ありがとうございます。より良いNPOとなれるようみなさまのお知恵とお力を貸してください。

<会費>狩野真由美、野口紀子、恩幣宏美、真下東雄、朴敬二、星野敏子、星野富男、金井美由紀、幸田一彦、佐藤秀男、鈴木布美子(10~13)、木暮道子、新澤誠治、佐藤貴雄、朝倉照雄、斎藤和子、田中京三、柴山享、川口知幸、伊藤成(11・12)、岩井均、中易圭子、今井睦子、土屋操、藤平久代、青葉由香(11・12)、角田敏太郎、板垣剛、丸山輝彦、松香光夫、山本浩、前田申栄、丸山武子、斎藤宏、山崎利夫、福田則行、菅ヶ谷マコ、宇賀神正美・真実、本島靖子、正田智美、佐俣由香、関口澄、狩野郁子。カッコ内はお支払いいただいた会費の年度、それ以外のカッコの無い方は12年度分です。

<インドネシア招聘>木暮道子、親泊治、宇賀神正美・真実。8月30日にインドネシアから5名の招聘生が来日しました。これも皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

<まなばる・復興支援>木暮道子、親泊治、板垣剛、福田則行、宇賀神正美・真実。まなばるも頑張っています。この原稿を準備している間も、ハロウィーンのイベントのためにスタッフ一同、一丸となって準備をしています。

<一般寄付>真下東雄、S・ジュティーン、朴敬二、小坂景子、金井美由紀、幸田一彦、福田則行、狩野真由美、関千景、太田琢雄、太田敬雄、櫻井信治、鈴木諭香子(x2)、鈴木布美子、柴山享、親泊治、朝倉照雄、村辻義信、川口知幸、山田杏奈、小坂景子、角田敏太郎、丸山武子、成瀬希仔子、斎藤宏、阿部洋一、福田英作、菅ヶ谷マコ、宇賀神正美・真実、正田智美、池田章二、鷹澤昭一、狩野武、堀越美津子、斎藤宏、かしぐねの会、村田元、清水智子。ありがとうございます。皆様に支えられている幸せをしみじみと感じています。

編集後記：◇暑く長い夏でした。今年度、認定NPO法人を目指して準備を進める中で、研究所としてさらなる活動をと「シリーズ対談」をスタートさせた。大変素晴らしい方々のお話を聞くことが出来て良かったが、その広報に追われてニューズレターが少々滞ってしまったのは残念だった。

◇まなばるでは7月7日に「七夕ウィーク」8月19日には夏フェス2012「ホラー祭 ~千年に一度のお化けまつり」(あと千年はこれはやらないってことかな?)9月1日・2日には多文化交流に合流しての「まなばる高学年サマーキャンプ2012」そして9月17日には高崎のもてなし広場で開催された櫻井信治さんのNPO法人「手をさしのべて」主催の「手をさしのべ手」にはJun先生の「英語で遊ぼう」と多文化物品交流「TOKO・INDONESIA」で参加。まなばるも暑い・熱い夏を過ごしていました。

◇8月20日からの「釜山外大生との多文化交流 in 釜山」これが台風15号、14号の挟み撃ちにあい九州から高速艇で参加したメンバーは高速艇の欠航で滞在が二日延びて29日に帰国。30日にはインドネシアから招聘した5名が来日。31日には太田家に一泊して、9月1日からの「留学生との多文化交流 in ぐんま」に参加。本当に忙しく暑い夏でした。多文化参加者の感想を、すべて全文掲載したかったのですが、スペースの関係で少々編集して掲載させていただきました。

◇10月末には「多文化交流 in 木浦」木浦大学の学生との交流です。(T)

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所